

岐阜県の森林・林業

森^{もり}林のたより

「日独林業シンポジウム2017」を
開催しました

No.772
2018 January

1

FREE

ご自由に お持ちください。



シンポジウム



エクスカーション



シンポジウム・特別講演

●森林文化アカデミーと岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムらの共催により、学術的交流・企業連携の取組みとして、日本・ドイツの林業・木材産業関係者を招いてシンポジウムを開催しました。(詳しくは4-5、6ページ)

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内 容 等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	開催場所 問い合わせ先
1月14日(日)	恵みの森づくり コンソーシアム presents 森あそび・森まなび	●時間: 11:00~16:30 ●内容: 恵みの森に関する講演会や、森の恵みに関する体験イベント・展示・販売等 ●講演: 13:00~14:20 (講師: C.W.ニコル氏) ●定員: 150名程度【講演会のみ(要事前申込)】 ●参加料: 無料(体験イベント等一部有料)	じゅうろくプラザ (岐阜市橋本町 1-10-11) 5階 大会議室 他 ----- 岐阜県林政部恵みの森づくり推進課 TEL 058-272-8473
1月28日(日)	清流の国ぎふ 親子「森・里・川・海」 体験ツアー (冬コース)	自然体験・活動を通して、流域の環境について親子で学ぶツアーを開催します。 『木曾三川にて 砂防と治水の学習&いちご狩り』 ●内容: さぼう遊学館にて砂防の学習、土石流3D映像疑似体験/治水神社にて秘密発見ウォークラリー/清流の豊かな水で栽培されたいちご狩り ●昼食: なまずバーガー ●対象年齢: 小学3年生以上 ●定員: 30名 ●料金: 大人4,000円、小人3,800円	さぼう遊学館、木曾三川公園 他 発着地: 中濃総合庁舎、JR岐阜駅 ----- 名鉄観光サービス(株) 岐阜支店 TEL 058-265-8103 FAX 058-263-5059 Web「名鉄観光 清流の国ぎふ」で検索 【申込受付中】
1月29日(月) ~2月13日(火)	平成30年度 森林文化アカデミー 入学試験(第4回) 願書受付期間	●森と木のエンジニア科(一般入試3) 2月25日(日) ●森と木のクリエイター科(入試4) 2月25日(日) ●入学願書(学生募集要項)については、ホームページ(http://www.forest.ac.jp/)からダウンロードできます。なお、一般入試3、入試4については、一般入試2、入試3終了後、定員を満たしている場合は実施しません。詳しくは1月19日(金)の合格発表時のホームページで公表します。	森林文化アカデミー (美濃市曾代 88) ----- 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL http://www.forest.ac.jp/
1月30日(火)~ 1月31日(水)	WOODコレクション (モクコレ)2018	●時間: 1月30日 10:00~17:30 1月31日 10:00~16:30 ●内容: 木材の大消費地である東京でのさらなる利用拡大に向けて、33都道府県の参加の下、日本各地の地域材を活用した建材や家具などの製品展示会を開催します。 ●入場無料、事前登録不要 ●詳細は専用サイト http://www.mokucolle.com をご覧下さい。	東京ビッグサイト 東7・8ホール (東京都江東区有明三丁目 10-1) ----- 県産材流通課加工流通係 TEL 058-272-8483
2月2日(金)	平成29年度 森林・林業関係 合同発表会	●時間: 13:00~16:30 ●内容: 林業普及指導、森林研究所、農林高校生等森林・林業関係者による合同発表会 ●定員: 300名(当日参加可能)	関市わかさ・プラザ多目的ホール (関市若草通 2-1) ----- 森林文化アカデミー内 森林技術開発・支援センター TEL 0575-35-2535



市況	22
林業者向けお知らせ	21
参加しました。	21
平成29年度第56回 治山研究会中部支部技術(設計・積算)検討会	20
国内産トリュフの感染苗木を作成する	18
まだまだ元気な岐阜県林業グループ連絡協議会	17
普及コーナー	16
国産林の現場から(16) 森林官の仕事	15
山のおしやまむし(318) 一歩間は一見にしかず、トカゲ	14
シリーズ:『森林・環境税』で緑豊かな清流の国ぎふづくり(8)	13
わがまちの森林・環境行政(13) 御高町の森林づくり	12
森の名手・名人シリーズ(44) 限界に挑むチャレンジャー	11
平成29年度ぎふの木育教材導入支援事業	11
清流の国ぎふ森林づくりサポーター現地見学会を開催しました	10
地域の人の郡上地域の木材生産をリードする林業技術者	9
生活環境保全林の安全利用を補助する制度	9
ウッドコレクション2017 in名古屋への出席	8
山の歳時記(149) 正月とユズリハ	7
木の香るぎふの施設(59) 中野地区集会所	6
森林と人を活かす知恵(61) 森林の価値とドイツとの交流	4
「日独林業シンポジウム2017」を開催しました	3
新年のご挨拶 (公社)岐阜県山林協会 会長 日置敏明	3
イベントカレンダー(一般向け)	2

岐阜県の森林・林業 News of the forest

森もりのたより

No.772 1
2018 January





表紙●表紙写真は日独林業シンポジウムの会場内とエクスカーションの様子。右下写真は特別講演の講師・小川三夫氏による槍鉋の実演。

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。
皆様には、健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年に開催した「ぎふの木フェスタ2017」では、2万人を超える皆様に木の良さや木を使うことの大切さを実感していただくことができました。ご協力を賜りました関係者の皆様に、この場をお借りしまして、お礼を申し上げます。

さて、今年度よりスタートいたしました「100年先の森林づくり」ですが、皆様のご理解とご協力により着実に進捗しております。

例えば、100年先に向けて望ましい森林の姿を描く「森林配置計画」の策定については、森林のある34市町村全てで地域検討会が開催され、既に策定が終了した市町村もございます。

低コスト再造林に欠かせないコンテナ苗の生産では、昨年度から約23万本も増加しており、着実に苗木の供給体制が整いつつありますし、「環境保全林」「観光景観林」の整備については、モデル事業地を選定し、針広混交林化や景観に配慮した施業方法の効果検証を開始いたしました。

また、今後、市町村の森林行政が重要となってくることから、これらを支援する「岐阜県地域森林監理士」の育成も順調で、認定後には地域で活躍いただけるよう県も最大限に支援してまいりたいと考えております。

現在、日本は人口減少社会へと突入し、50年後の生産年齢人口は約4割も減少すると推計されています。これは全ての産業界にとつて大きな問題であり、森林技術者が減少傾向にある岐阜県の林業界には切実な悩みとなっています。こうした中、昨年11月に開催した「日独林業

岐阜県林政部長 高井 哲郎

シンポジウム2017」では、人材育成、技術継承に取り組む第一人者が一堂に会し、これからの森林づくりを担う人材育成について、両国が連携しながら取り組むことが確認されたところでした。

そこで、新たに人材の確保・育成のための拠点を設置し、これまでの取組みに加え、「林業版ハローワーク」の開設や、新規参入者の支援、通年での雇用確保に向けた仕組みの構築など、人材の確保から定着までの取組みを総合的に支援することを検討しております。

一方、100年先の森林づくりを進めるためには、県民の皆様が森林・林業に対して関心を持つていただくことが重要です。このため、子どもから大人まで全ての世代に対して、「ぎふ木育」を実践する仕組みづくりにも更に力を入れてまいりたいと考えております。

木材の需要面では、人口減少に伴う低迷も懸念されていますので、新たな需要の創出に向け、新用途開発への支援や、首都圏・中京圏はもとより、韓国を中心としたアジア圏に向けた販路拡大への支援を行っています。

昨年の秋には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に設置される「選手村ビレッジプラザ」へ木材を提供する事業協力者に岐阜県と6市町村（関市・中津川市・郡上市・下呂市・白川町・東白川村）が選定されました。こうした機会を活用し、国内外へのPRを一層進め、県産材のさらなる需要拡大を図ってまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びになりますが、本年が県の森林・林業・木材産業の飛躍の年となりますよう祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

（公社）岐阜県山林協会 会長 日置 敏明

明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、岐阜県では、「清流の国ぎふ」づくりの全面展開の元年として、「人づくり」、「魅力づくり」、「安全・安心づくり」の三つの政策の柱立てのもと、「中小企業総合人材確保センター」の設置や、千三百年目を迎えた「養老改元」と「白山開山」の記念行事の開催、東京五輪施設への県産木材の提供の決定など様々な施策が積極的に展開されました。

林政関係では、現在の森林を、新たに「木材生産林」「環境保全林」「観光景観林」「生活保全林」の四つに区分し、一〇〇年先を目的に、県民総参加で、それぞれにふさわしい森林の姿にしていこうという「二〇〇年先の森林づくり」を柱とする、第三期岐阜県森林づくり基本計画がスタートしました。また、このような林政全般の施策推進のみならず、環境面、NPO等の団体活動の支援等多方面で県民の生活環境の向上に貢献する「清流の国ぎふ森林環境税」も、平成三十三年度まで延長されました。

森林整備の推進には、その担い手の住む山村地域の活性化が不可欠です。岐阜県では、平成二十三年度の中津川市の大型合板工場に始まり、瑞穂市の大型バイオマス発電施設、郡上市の大型製材工場が稼働を開始するなど、木材の受け皿施設の整備が急速に進められています。これら施設整備と、従来から取り組まれてきた高性能林業機械の導入や林道、作業道など木材生産基盤の整備がここきて、木材生産の増大という形で成果をあらわしつつあります。さら

に県では、平成二十九年年度から主伐、再造林による人工林の若返りに本格的に取り組まれるなど、林業を核とした山村地域の活性化が現実のものとなってきています。

一方、昨年七月に発生した九州北部豪雨に代表されるように、近年は、異常気象の影響が百年に一度という豪雨が多発し、これによる大規模な山地災害が各地で増えつつあります。このため防災、減災の視点からも治山事業や間伐等の森林整備の着実な推進が重要となってきています。

こういった中、国では、更なる森林整備を推進するため「森林環境税（仮称）」の創設が検討されていましたが、昨年十二月に決定された、平成三十年度税制改正大綱に、自発的な林業活動が見込まれない条件不利地の森林整備及びそれを担う人材の育成・確保を、市町村が主体となつて推進するための新たな財源として、「森林環境税（仮称）」と「森林環境譲与税（仮称）」の創設が明記されました。

森林の公益的な働きの維持・増進に寄与することを目的とする当協会としまして、岐阜県の豊かな森林の生み出す多様な恵みを、現在のみならず、一〇〇年先、二〇〇年先の県民も享受できるよう、国の森林環境税（仮称）等の動向を注視しつつ、国や県に対する制度や予算の充実の要請等を通じて、森林整備の推進と山村地域の活性化に取り組んで参りますので、皆様の御支援を御願いたします。

結びになりますが、今年一年の皆様のご多幸を祈念しご挨拶いたします。

「日独林業シンポジウム2017」を

開催しました

昨年11月6日から9日にかけて、「日独林業シンポジウム2017」を開催しました。

このイベントは、ドイツのロッテンブルク林業大学と岐阜県の森林文化アカデミー（以下、アカデミー）との間で平成26年に連携の覚書を交わしたことをきっかけに、一昨年ドイツにて第1回目が開催され、今回はアカデミーがホスト役となり、第2回目として開催したものです。

11月7日に本体となる「日独林業シンポジウム」を開催したほか、この前後、11月6日に「エクスカーシオン」、11月8日から9日にかけて4つの「特別セミナー（分科会）」を開催しました。

これらの開催結果について紹介します。

●日独林業シンポジウム

（11月7日火）

「100年先の森林づくりを見据えた人材育成」をメインテーマに、岐阜グラントホテルにて開催しました。ドイツから

約30名、日本側は県内外の関係大学や関連企業、一般の方など多数の参加をいただき、定員の300名を超える約350名の参加がありました。

午前中に法隆寺専属の宮大工として知られる故・西岡常一氏の唯一の内弟子である小川三夫氏の「木のいのち 木のころ」と題した講演がありました。講演では宮大工ならではの木の特性を踏まえた木材の使い方や、後継者の育て方などについて実例を交えお話をいただきました。

午後からは、メインテーマである「100年先の森林づくりを見据えた人材育成」について、林野庁森林技術総合研修所 赤堀聡之所長、ロッテンブルク林業大学Bastian Kaiser学長、岩手大学 澤口勇雄教授、鹿児島大学 寺岡行雄教授から、それぞれが取り組む人材育成に関する学術講演をいただきました。

最後には、アカデミーの涌井史郎学長、ロッテンブルク林業大学のBastian Kaiser学長、産業界から飛騨産業㈱の岡田賛三社長の三者により、「林業・木材産

業を担う人材に求める姿と我々の使命」をテーマにトークセッションが行われました。「遠くのビジョンを心に秘めながら、具体的なフィジカルプランをどう立てるのが当面の人材育成の大きなポイント」など、100年先の森林づくりを担う人材育成の方向性について議論を深めていただきました。



▲日独林業トークセッションの様子

途中、ロッテンブルク林業大学が属するバーデン・ヴュルテンベルク州の「森の女神」と、日本の「ミス日本みどりの女神」が並んでのスピーチが行われる一幕もありました。



▲「みどりの女神」と「森の女神」のスピーチの様子

また会場の内外には、日独両国の森林・林業関係企業ら計22団体のブースが出展され、多数の来場者が足を止めて説明を聞き、一部の企業間では商談も行われていました。



▲会場外での日独の関係企業による展示ブースの様子

●エクスカーシオン

（11月6日月）

7日のシンポジウムに先立ち、ドイツ人関係者、県内外林業・木材産業関係者の計42名によりエクスカーシオンを行いました。午前は、郡上市美並町の美並ふるさと館や(南)古川林業の施業地を訪れて岐阜県、特に郡上地域の森林・林業の歴史と文化について触れ、午後からは郡上市白鳥町の長良川木材事業協同組合の製材工場を訪れました。



▲前夜祭（ウェルカムセレモニー）での日独記念品交換



▲長良川木材事業協同組合でのエクスカーションの様子

現地にて視察をしながら意見交換をし、ドイツと日本の林業の違いを学ぶ一日となりました。

また、この日の最後には、岐阜グランドホテルにて前夜祭を開催し、日独関係者が親睦を深める場となりました。

●特別セミナー（分科会）

（11月8日（水）～9日（木））

7日のシンポジウムの後、会場をアカデミーに移し、8日に「森林環境教育分科会」、9日に「木造建築分科会」、9日に「獣害対策担い手育成分科会」を開催しました。

また、8日から9日にかけて中津川市加子母の加子母森林組合と関ヶ原町の今須林業を巡る「森林施業分科会」を実施しました。いずれの分科会も定員に迫り、また超える規模の参加者を得て開催しました。

それぞれの分科会では、専門テーマごとに日本およびドイツで活躍する第一人者を講師に迎え、講演やパネルディスカッションが行われました。一部分科会では、屋外・現地へ出て、実践的なワークショップや視察も行いました。両国が取り組む事例の報告や意見交換等を通じて、課題解決方法の模索や両国のさらなる連携の強化を図る場となりました。



▲森林環境教育分科会でのワークショップの様子



▲森林施業分科会（関ヶ原・今須林業）でのぶり縄の実演



▲獣害対策担い手育成分科会の様子



▲木造建築分科会の様子

●今後に向けて

今回のシンポジウムを一つの契機としながら、今後も海外との人的・学術的な連携、関連企業等との連携強化を目指して取り組んでいきます。

各イベントの詳細については、アカデミーのホームページの活動報告をご覧ください。

森林文化アカデミー 活動報告

【森林文化アカデミー

森林技術開発支援センター産学官連携係】

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-3512535 まで



▲森林施業分科会（中津川市加子母）での視察の様子

森林の価値とドイツとの交流

岐阜県立森林文化アカデミー 学長 ● 涌井 史郎

さる11月6日から9日まで日独林業シンポジウム2017を開催した。昨年ドイツ南部バーデン・ヴュルテンベルク州のロッテンブルク林業大学で第1回が開催され、その直後から本学が幹事となり、森林技術開発・普及コンソーシアムの参画を得て相互訪問を重ねて準備を進めてきた。

ロッテンブルク林業大学と本学は、2013年に岐阜県とバーデン・ヴュルテンベルク州が協力協定を締結したのに伴い、2014年に古田知事立会のもと同様の覚書を交わし、以来両校の教員・学生の相互訪問が続き、相互の知見が高められていく。そればかりか、森林技術開発・普及コンソーシアム会員の3回の訪問が行われ、林業・林産物の事業経営について、多くの有意義な収穫を得てきた。

最近の両校間では、林業経営は当然のテーマとして、個別的には獣害対策、森林の多目的公益性への理解を深めるための森林環境教育分野が浮上している。

それにしても、多くの林業・林産物利用関係者のご協力を得たこのシンポジウムは大きな関心を集め、8日と9日両日アカデミーで開講された、森林環境教育、木造建

築、獣害対策担い手育成、森林施業の各分科会は定員を上回る参集があり、前日の7日グランドホテルで開催された「100年先の森林づくりを見据えた人材育成」というメインテーマの本シンポジウムもまた立ち見が出るほどの盛況ぶりであった。

7日には法隆寺の大棟梁として知られた西岡常一氏の後継者小川三夫氏の「木のいのち 木のこころ」と題する長年樹と対話をし、千年残る木造建築を目指し、古寺の修復や再建にあたってきた氏ならではの経験値からの木材に対する見方と、それに取り組む人材育成の肝の話題に聴衆は聞き入っていた。次いで林野庁森林技術総合研修所赤堀所長、ロッテンブルク林業大学Boschの学長、日独シンポジウムの礎を築いた岩手大学・鹿児島大学からそれぞれ澤口・寺岡教授による学術講演、最後に筆者とBoschの学長、そして産業界から飛騨産業(株)岡田賛三社長による「林業・木材産業を担う人材に求める姿と我々の使命」と題するトークセッションが行われた。

また会場外には、日独両国の森林・林業関係企業のブースが出版され、Boschの商談が弾んでいた。これら全てを概観すると

今回のシンポジウムは大成の部類にと判断している。

このシンポジウムで筆者は次の事を主張した。まずは、パリ協定を考えると、今後年間9億炭素トンを吸収する森林の健全性を担保する山村社会や林業者の社会的経済的不利益を如何に公正で衡平な方向に誘導することができのかがBoschなど持続的未來に不可欠であること。次に、森林・林業、木材加工、木材利活用分野が、それらを上・中・下流域に擬え捉えると日本ではバラバラの状況に置かれ、地球環境問題に對し重要な機能を果たすことは頭で理解できても、目先の現実からは実感値に乏しく、とてもそうした方向に結集できない。そのブレイクスルーとして、岐阜県ではアカデミーに置かれた支援センターが事務局となり、ドイツと連携しつつ上・中・下流域を一体とした「森林技術開発・普及コンソーシアム」が設立されたこと。最後にいたずらに木材産業だけが優位に立ち、山元一人負けの構図が続けると営林意欲が減退し、結果として森林が有するCO₂の吸収機能の他、防災・減災や生物多様性、そして人々の精神性に寄与する等多面的公益性充足に極め

て大きな支障を生じせしめる事などがその主張の骨子であった。

ところで今霞が関と永田町で森林環境税導入についての論議が佳境に入っている。シンポジウムでも前述した主張のように、こうした新財源が確保できれば、幾何かの効果は期待できる。森林の持つ多目的公益性と、林業経営の現実との乖離を多少でも埋めることができ、志を持つ自治体が財源を得て上・中・下流域を一体化する森林・林業の新たな施策展開が期待できるかもしれない。

しかし水面下では、国民からの徴収額を巡って激しい駆け引きがある。また、岐阜県のように既にそうした制度を導入している自治体が30を超えている現実から、そうした先進的取り組みを行って施策の体系が一定程度の熟度を増す中、二重徴税の議論が徘徊し、結局は国が先進自治体に対し、後出しじゃんけんの位置に立つだけという過ちが生じることを懸念している。

やらないよりはやった方が絶対に良い。しかし、先行して取り組む自治体に対しては制度や予算のいずれか、或いは両面においてアドバンテージを考えることが不可欠であろう。林業が魅力的な事業となり、潜在的な自給率が100%近い木材の国内での利活用が進み、伐って植えて育てる健全なサイクルとなれば、取り残されつつある山村社会が息を吹き返し、吸収源その他の公益性が未來に向けてより着実に担保されることとなる。

中野地区集会所

岐阜県郡上市八幡町稲成字シマクチ361番地6



施設全景

○ 施設概要

事業年度	平成28年度
事業主体	中野地区会
構造・ 延床面積	木造 104.90㎡
施設用途	地区会の集会
木材使用量 使用樹種	県産材使用量 37.03㎡（県産材使用率86%） 主な使用樹種：スギ、ヒノキ
全体事業費	17,576千円
助 成 額	県産材需要拡大施設等整備事業 5,000千円
総合デザイン 設 計 者	船家建築企画 エイム建築研究所
施工業者	株式会社 清水建設
工 期	平成28年7月～平成28年11月

会議室の天井は、
梁・桁が見えるようになっています。

施設の経緯

昭和44年に建築された旧中野公民館老朽化のため、集会所機能を近隣に移転することになりました。そこで岐阜県産のスギ・ヒノキをふんだんに使用し、木の香りと温もりに満ちた親しみやすい集会施設を建築しました。

会議室は25畳あり、
様々な用途に使用できます。

ここに注目!!

- 構造材、内装材にもスギ・ヒノキが多用され、木の温もりが感じられる施設となっています。
- 利用者を出迎える玄関ホールとポーチには、広々としたウッドデッキが施されています。

利用者の様子

- 利用される住民のみなさんから、木材がふんだんに使用され、木の香りがし、空間がとても気持ちいいと好評です。

■問い合わせ先

郡上市役所 総務部総務課

連絡先 TEL 0575-67-1832



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

お正月用のマツの小枝を採ろうと出かけた山で、エゾユズリハを見つけてきました。

エゾユズリハ (*Daphniphyllum macropodum* var. *humile*) はユズリハの変種で、北海道〜本州北部に分布する雌雄異株の常緑高木です。葉は長楕円形で厚く革質、表面は光沢があり、裏面は粉白色で、葉柄は赤味を帯びており、互生します。

岐阜県内には福島県以西の本州、

四国、九州、沖縄に分布するユズリハ (*D. macropodum*) もありますが、分布的にはエゾユズリハが多く、こちらは多雪地帯の林床で枝がよくしなり、粘り強いのが特徴です。

同属のユズリハ、エゾユズリハ、ヒメユズリハは春から初夏に新葉が出揃うと、古い葉が一斉に落葉するため、漢字で「讓葉、交讓木」と書かれます。

新しい葉が展開した後、古い葉が落ちるといのは、なにもユズリハに限ったことではありません。クスノキなどの常緑樹に多く見られる現象ですが、ユズリハは葉が大型で美しく、また新旧の入れ替わりが急激でよく目立つため、新旧交代の縁起物として、しめ飾りや鏡餅などに飾りつけられました。特に武家では、この葉が入れ替わる様子を子どもが成長したのを見届けた後、家督を譲る。つまり家系が途切れることなく続く象徴として、正月飾りに用いたのです。

東京では昔、「お正月がござった。どこまでござった。神田までござった。何に乗ってござった。讓葉に乗ってゆずりゆずりござった。」と歌ったそうです。

平安時代にはお盆や大晦日に祖霊が山から帰ってくると信じられ、大晦日の魂祭(たままつり)では、ユズリハの上に亡き霊への供物を盛ったことが「枕草子」に記されています。また日本各地には大晦日や元日に、餅や干し柿、豆、栗などの堅いものを食べ、歯の健康増進を願う「歯固め」の行事がありました。その食べ物の下にはユズリハの葉が敷かれていました。この様子も「枕草子」に記されており、かなり古い時代から縁起木として重用されていたことが分かります。

ユズリハは有毒植物としても知られ、北海



▲厚く革質な葉と赤い葉柄が特徴

道ではエゾユズリハを食べた放牧牛が死亡や軽度のチアノーゼ、第一胃運動の停止、便秘または下痢などの中毒を引き起こしたと報告されています。また静岡県では注連飾りのユズリハを、藁と一緒に牛に与えたり、剪定したユズリハを牛に与えたりして、食欲不振や起立不能となった事が報告されています。さて、山で手ごろなマツを見つけれなかった私は、偶然見つけたエゾユズリハの枝を手に、帰路に就いたのです。

ウッドコレクション2017in名古屋への出展

平成29年10月27日（金）から30日（月）までの4日間、岐阜県、愛知県、三重県、長野県の県産材を広くPRするために「ウッドコレクション2017in名古屋」が、愛知県のポートメッセなごやで開催されました。

また、隔年開催の「日本木工機械展」とその併催事業の「ウッドワンダーランド2017」が合わせて開催され、期間中は台風による悪天候に見舞われながらも、計2万人を超える来場者を記録しました。

「ウッドコレクション」には、前記4県から計32の団体・法人等（この内岐阜県関係は9）が出展し、県産材を活用した製品の紹介や、木と共にあるライフスタイルを提案した結果、多くの来場者が関心を寄せ、一部では今後の商談に繋がる場面もありました。

本県は、木の格子を基調としたブースを出展。ブース内では、大型プロジェクターによる2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた県産材の利用促進活動の紹介、ポスター・写真等による岐阜県の取り組みの紹介、また、観光・移住を含めた各種パンフレットを配布し、多くの来場者へぎふの木に触れ合っていただく機会を提案することができました。

これからも、関係者の皆様と連携・協働して県産材利用促進に取り組んでまいります。



【県産材流通課 富田 清一郎】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8487 県産材流通課まで

生活環境保全林の安全利用を補助する制度

岐阜県には治山事業で整備した生活環境保全林が32箇所あります。生活環境保全林とは、市街地の周辺に存する保安林の機能を多目的かつ高度に発揮させるため、治山ダム工や森林の整備、花木の植栽等を行い、保健休養や自然観察の場として整備した森林で、多くの県民の方々に利用されています。

現在は、市町村が生活環境保全林を管理していますが、岐阜県では生活環境保全林の利用促進を図るため、整備に要する費用について補助制度を設けています。

ご紹介する「みのかも健康の森」は、梨狩りやぶどう狩りで知られる美濃加茂市山之上地区に位置し、128ヘクタールの園内にはヤマザクラやヤマツツジなど、50種4万7千本あまりの花木や紅葉の美しい木々が植えられています。また、美濃加茂市においてフィールドアスレチックやバーベキュー広場等の憩いの場も整備され、ここでは四季折々の風情を満喫しながら森林浴や林内散策が楽しめるとして、毎年多くの方々が訪れています。平成28年度には、美濃加茂市が岐阜県集落環境保全整備事業を活用し、木製手すり等の修繕工事を行い安全性の向上を図りました。

岐阜県では、今後もより多くの県民の皆様に生活環境保全林を安全に利用していただくため、集落環境保全整備事業の積極的な活用を推進して参ります。





谷口さん

郡上地域の木材生産を リードする森林技術者

郡上森林組合

谷口 隆志さん

郡上地域は、大型製材工場の稼働もあり、ここ数年で木材生産が急速に拡大しています。その中でも郡上森林組合は、郡上地域の木材生産量の約半分を担っています。

今回ご紹介する谷口さんは、現在郡上森林組合において、14名の班長（林産9班・造林5班）で組織する班長会の会長を務めています。平成28年2月には、森林技術者欧州研修としてチェコ・メンデル大学で機械操作研修に励んでいただき、今後はタワーヤーダ集材の指導者として活躍が期待されています。

林業就業からこれまで

平成9年に旧明宝村森林組合に就業して今年で21年目になります。採用1年目から2年目まではラジキャリーとクレーン付きトラックによる木材生産に従事し、その後は保育班として間伐を中心とした育林作業に従事していました。

現在の木材生産中心の業務に移行したのは、平成24年からです。

郡上森林組合の中でも現場改善に向けた意識と生産性の高さから谷口班は一目置かれています。我々林業普及指導員が現場に行っても「何か改善できることはないか」と容赦ない質問が飛んできます。

谷口班は、当初は作業道の支障木伐倒から造材までを自身も含めた3名の班員と1台のプロセッサを使って効率的に行うか考えながら作業することからスタートしました。

幸か不幸か、限られた機械で如何に効率的な仕事をするのか追求してきたことが、現在のプロセッサ中心の作業システムを作り上げるのに役立ったようです。

多彩な人物像

谷口さんは、非常に多趣味でまたいろいろな肩書があります。

森林組合内の改善チームの一員として複数の班でプロセッサを使用して機械稼働率を高める提案を行い、それにより森林組合のプロセッサの稼働率が飛躍的に上がりました。

冬場は同じ班員の周戸さんと坪井さんと林業を離れて「めいほうスキー場」で全日本スキー連盟（SAJ）公認のパトロール員の隊長としてパトロール業務に従事しています。

最近では講習会を受けて特殊伐採をやり始めましたが、そうした技術や経験が本業の木材生産にも役立っているようです。



谷口班による搬出間伐



谷口さん操縦のプロセッサによる造材作業

また、過疎化が進む地域を活性化しようと林業仲間と一緒にチェンソーアートをを行う集団を立ち上げようとしています。

今後の目標

谷口班も初めは思ったように効率的に木材生産が出来ず悩んだ時期があったそうです。

そうした時期に岐阜県森林組合連合会の樋口さんから現場の設計や造材指導などを受けたことをきっかけに現在の高い生産性と安全性が維持出来るようになりました。

そうしたこともあって「今度は自分たちの世代が今まで習ってきたこと、経験したことを次の世代に繋げる番である」と口元を引き締めて、いつも熱く語ってくださいます。

そうすることで、豊富な森林資源を抱える郡上地域の木材生産を更に拡大させ、地元若者が地元の木によって生活を支えられる時代になる。

そんな時が来ることを夢見て今日も寒い中、丸太に向かって現場で格闘されています。



谷口班と県森連 樋口さん
(今でも良き師弟関係)

【郡上農林事務所 和田 将也】

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1671111(代)

郡上農林事務所まで

清流の国ぎふ森林づくりサポーター 現地見学会 を開催しました

「清流の国ぎふ森林づくりサポーター」の現地見学会を11月9日(木)に郡上市内で開催し、11名の方が森林づくりの現場を見学しました。

県では、森林づくりの取組みを県民協働で推進するため、県の取組みに対して、ご意見・ご提案をいただくことを目的に、「清流の国ぎふ森林づくりサポーター(以下、「サポーター」という。)」を設置しています。

サポーターの方々に、森林づくりに関する見聞を広め、県の取組みに対する理解を深めていただくため、今回初めて、県内の木材生産、加工流通の現場等の見学会を開催しました。

当日は、再造林(郡上市八幡町初音)・主伐(郡上市明宝寒水)の現場、木質バイオマス施設(郡上市明宝奥住)、製材工場(郡上市白鳥町那留)の4箇所について、各事業者さまのご協力のもと、見学をしました。

また、見学の後に行った意見交換では、見学先の取組みについての意見や、サポーター活動の活性化に向けた提案など、様々な意見が交わされました。

県では、今後とも、サポーターの方をはじめ、県民の皆さまとともに、100年先の森林づくりの推進に取り組んでいきます。



「清流の国ぎふ森林づくりサポーター」の募集

県では、県の取組みに対して、ご意見・ご提案をいただける方を募集しています。

詳細は、県林政課ホームページをご覧ください。

トップ > 産業・農林水産・観光 > 森林・林業・木材産業
> 法令・計画等 > 森林づくり基本条例・計画
> 清流の国ぎふ森林づくりサポーター

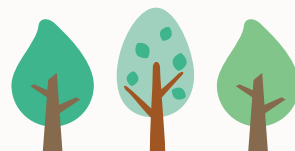
【林政課 西尾雄介】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3020) 林政課政策企画係まで

平成29年度 ぎふの木育教材導入支援事業



ぎふの木のおもちゃ・教材キットの購入費の一部を補助します！

- | | |
|----------------|---|
| 対象事業者 | 市町村(一部事務組合を含む)、学校法人、社会福祉法人、医療法人、子育て関連のNPO法人、市町村の設置する保育園・幼稚園・小中学校・特別支援学校など |
| 対象施設 | 保育園、幼稚園、認定子ども園、小中学校、子育てサロン、児童館、託児所等 |
| 対象となる教材 | 県産材(原則ぎふ証明材)で作られた木のおもちゃ、木製品キットなど |
| 補助金額 | 購入費用の1/2以内
「ぎふ木育ひろば認定施設」については、購入費用の10/10以内
ただし、1施設につき100,000円が上限。 |
| その他 | 県からの交付決定通知の後に注文するものが対象となりますので
注文後の補助申請は認められません。 |



申込・お問い合わせは・・・

清流の国ぎふ森林・環境税活用サポート窓口
(岐阜県庁恵みの森づくり推進課内)まで

TEL : 058-272-8472

(土日祝を除く8:30から17:15)

e-mail : c11513@pref.gifu.lg.jp



森の名人・名手シリーズ 44



名人

石原 英和 (80)
岐阜県美濃市

聞き手

長屋 徹
岐阜県立郡上高等学校3年

平成26年取材

紙漉き

限界に挑む チャレンジャー

1. これが原料だよ
和紙として使うのは楮が一番多いね。本美濃紙以外は高知県の土佐楮で作る。この辺では、和紙は土佐楮がベースにある。土佐楮は、ある程度の繊維の長さがあって、長すぎず短すぎずやね。作りやすいし、いい物ができるというのが土佐楮の使われた理由やね。



土佐楮

本美濃紙は栃木県的那須楮を使う。那須楮は少し土佐楮より繊維が短く、細いもんで、漉いたときに和紙の密度が濃く、障子に光を通したときに非常に柔らかく、いい光になる。



那須楮

那須楮は15キロやと7万円くらい、土佐楮は20キロで5万5千円から6万円する。今楮は高い。収量も少ないもんで、中国に楮を持って行って栽培して、また輸入する人がおる。土佐楮や那須楮以外にも今は外国産のほうが多いかもしれん。安い和

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が認定されています。岐阜県においては、現在、50名の「森の名手・名人」が認定されています。

この「森の名手・名人」を「森の聞き書き甲子園」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上、要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

紙を作ってくれていう人には、外国産の原料を使う。今は中国から輸入してくるでしょう。そうすると、楮も作つとる人が少ない、需要も少ないもんで楮が売れなくなる、悪循環やね。

雁皮は原料の中で一番繊維の長さが短い。だから、雁皮で紙を作るとシヤリとした紙ができる。その次に短いのが三桵。

三桵は、全国で一番栽培されとるかもしれん。栽培は難しいけど日本のお札を作つとるもんで、岡山県とか高知県で栽培しとると思う。

これは、トロアオイ。昔は乾くところに置いていかんかん乾かして水に浸して叩くやけど、今はクレゾールっていう消毒液があるもんで、それん中につける。ある程度乾かすと葉の浸透がいいやら、乾いた分だけいい。大きな蔵の中に保存して1年あるようにして使う。毎年30キロを5つくらい。高くはなつとるわね。

2. 和紙はいろんなものに使える

伊勢の型紙

着物を染めるとき伊勢の型紙、友禅つて型紙を楮で作る。京都の染め屋さんが使われる紙を私が、伊勢の型紙屋さんに行って行く。それから、京都の染め屋さんが型紙を使って模様を彫刻して友禅の型紙を彫るつていうことで、非常に繋がりがあつたわけ。染めの柄をつけたときに粗いと途中から染料が漏れよる。それで、密度の濃い紙作つたらんとあかん。だから難しいところがある。

謄写版原紙

昔、東京の堀井謄写堂つてところが、雁皮で印刷をやつたのね。学校のテストなんか先生が自分で作つたのね。謄写版原紙に問題を書いて印刷したわけ。謄写版原紙つていうのは、紙に升目を作つて、印刷してそれから蠟がひいてあるでしょ。その升目に沿つていろんな字が書ける。日本で漉いた、その紙は非常に性能がよくて、輸出して世界を席巻したことがあるんやね。

本美濃紙

本美濃紙は障子や提灯のために明かりを通す紙が求められるから、薄くてきれいだ。栃木県的那須楮を使って、強い薬品を使わずに漉いて、お日様に干す。本美濃紙保存会の会員じゃないと漉いても本美濃紙とは言われんよ。

箔間紙

箔間紙は、お仏壇に使う金箔を保護する紙。箔間紙は、原料もちゃんと決まってるの。三桵を100%使うのね。その代わり、これは、薬品を使わずに石灰を使って柔らかく煮る。ソーダ灰も駄目なの。金箔と重ねておくと薬品使つてあると箔が変色する。買つてから10年おいても20年おいても変わらないつていうのは、その製法でしか駄目つてことなのね。箔間紙ばかりうちんとこは昔20年くらい漉いてた。

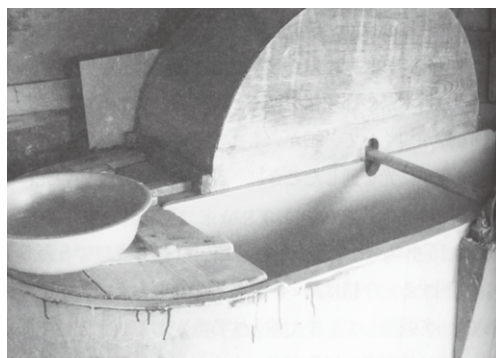
3. 和紙の最初はね

最初はね、産地から原料を買う。今私のは高知県から土佐楮や栃木県から那須楮を買つとる。買つた原料を昼夜水に浸す。そしたら、釜に原料とソーダ灰を入れて、だいたい3時間から4時間煮る。ほんとにいい紙作ろうと思つたら、火力が柔らかい、松を割つた木で煮る。

それから、塵取りつてね、不純物を原料から取り除く。次に塵取りした後の原料を叩いたり、ビータつていう機械をかけたつて、細かくして漉

維だけにする。

そして、仕事場の船に細かくした原料と、トロアオイという紙を漉くための補助剤を入れる。トロアオイの根の粘液の性質で、船の中に水を入れても原料は沈まない。漉いたばかりのドロドロした紙を1枚1枚重ねたり、ジャッキ台でプレスして水分を絞つてもはがれる。ジャッキ台でドロドロの紙の水分を絞ると水が出てきて細い繊維が絡まったやつが残る。それを1枚1枚はがしてハケを使って板に張り付けて外で乾かす。そして製品の大きさに切る。

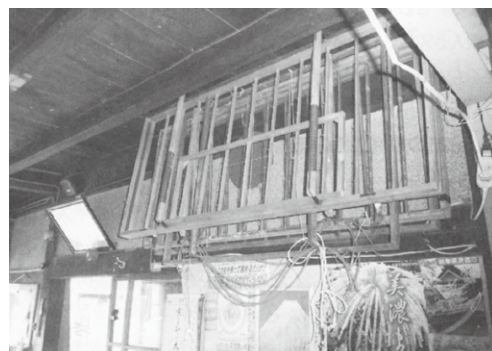


ピータ (細かくする機械)

薄い紙を漉くには、1分から5分かかるかもしれないし、1日漉いても100枚漉けん紙もあるし、300枚漉ける紙もある。和紙の原料を煮たら1日や2日おいてから1日くらいは塵取りをせなあかんし、塵取りしてから細かく繊維だけにして、漉くのに1日かかって、干すのに1日かかるでしょ。できるまでには、4日から5日かかるってことやね。

4. 道具の職人さんのおかげやね

まず、紙を漉く道具はこの木の枠が桁^{けた}ついている。細い竹を絹で編んだのが簾^す。桁や簾を作る職人さんが別々にみえる。



桁

桁で水を汲むでしょ。まっすぐに平面を作るとなると真ん中に水の重さが加わると紙の真ん中が厚くなる。そうならんように作らなあかんもんで、桁の下の方に針金があるでしょ。横から見ると真ん中の針金が多少膨らんどる、これが水を汲むとまっすぐになるようになる。これで、調整しとる。桁を作るにも技術がいるんやね。

5. 和紙の最終工程の紙漉き

今日は、伊勢の型紙を漉いとる。型紙の標準のサイズは縦60cmの横90cmで、注文によって多少小さいとか大きいとかあるけど、用途によって異なる。本美濃紙のサイズは、もうちょっと大きくて縦64cmの横97cm。

今使つとる大きい桁だと、紙を漉くときには、水が重くて漉けん。こんだけ持つとると、普通やたら重くて下に落ちるやら。そんで、竹にひもをつけて桁をつつて、竹の力を利用しながら漉くもんで、そんなに力はいれん。そんで今の漉き方は、流し漉き。流し漉きは何でもできる。用途によって紙をどういうふう流すかってことが違う。揺らし方が違つと、表面は変わらんけど、この揺らし方のほうが紙の目が細かく、密度が濃くなる。用途によって

これが一番いいという漉き方を昔の人から受け継いどるだけで、私が工夫することはない。だけど、今までにない新しい紙が注文来たときは、自分で工夫して漉く。



紙漉き

6. 原料補給やね

今入れたのは、楮を細かくしたやつ。今漉いとる薄い紙は、60枚漉きあげると中の原料がなくなるもんで、入れる量を変えてかなあかんやら。1回に入れる楮の量は、今漉いとるぐらいの厚さの紙を作るときはこのぐらいという自分の目安。長年やつとるとこのくらい入れるとどのくらい漉くってことがわかつとるもんで、そんなに大変な話じゃない。

原料を入れてかき混ぜるのは、こんだけが動力化したんだよ。3分間やると210回混ぜる。トロアオイがはいったやら。こーやって混ぜると、腕にかかる力で粘りがこんでいいかなつてことが、だいたいわかる。こんで、1枚漉いてみて、足らなったら補給する。

7. チャンピオンじゃない

美濃市の牧谷小学校の子供たちに、はがきや世界に1つだけの卒業証書を自分に漉く活動を、も

う26年やつとる。それと長いこと紙漉きやつとるもんで、瑞宝単光章をいただいた。こういうものは絶対に1人ではもらえないもんじゃない。みんなの支えがあったからもらえるもんじゃないと思う。

ユネスコの無形文化財に本美濃紙、埼玉県細川紙、島根県の石州半紙が指定を受けたけど、これからもやっぱ、お客さんに喜んでいただけるものを作るっていう気持ちが一番大事だと思う。

昔、岐阜提灯の薄い紙漉いとうたんじゃわ。そして石原さん、こんな薄い紙漉けるのはチャンピオンやねって言われたけど、私はチャンピオンじゃなくって常に限界に挑むチャレンジャーじゃないと駄目やと思う。チャレンジャー精神がないと人間は成長が止まるというかね、絶えずどんな物事にも挑戦していく。チャレンジャーということは先を見るってことやで、できなかったらできるまで挑戦して、できたら、そこから先に一層よくなるように作っていくというのが職人やね。

名人 石原 英和さんのプロフィール

●生年月日…昭和10年3月14日生まれ

●職業…和紙製造業(紙漉き職人)

美濃市上野において15歳の時から紙漉きに携わり、国重要無形文化財に指定された手すき和紙の技術を有し、平成26年にユネスコ世界文化遺産に登録された「本美濃紙」を漉くことの出来る「本美濃紙保存会」の会員であり、伝統技術の伝承と後継者の育成に尽力している。こういった業績が認められ平成26年に瑞宝単光章を受章した。

平成元年から美濃市立牧谷小学校で、自分で漉いた美濃和紙による卒業証書作りを指導するなど、地域の伝統文化の承継に貢献している。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当】

公益社団法人

岐阜県緑化推進委員会 専務理事 黒崎隆司

御嵩町の森林づくり

御嵩町の森林づくり施策を紹介します。



御嵩町は、県下では雨・雪とも比較的小なく、温暖な地域です。町の中央部を東西に流れる可児川を中心に住宅や農地が広がっており、南北と東部の三方は山間で森林に囲まれています。

環境モデル都市みたく

本町は低炭素社会の実現に向け高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジしている都市として、県内で唯一の「環境モデル都市」に選定され、その行動計画に基づき二酸化炭素の吸収源としての「森林の再生」を目指しています。

①町有林の森林経営信託による整備

町有林約800haのうち約200haを平成24年から10年の期間で、可茂森林組合と森林経営信託契約を締結しました。工期や時期に縛られない安定的な事業量が確保できることや、隣接する私有林の森林の経営計画を取り込むことなどにより、森林施業の拡大につながっています。森林経営信託により、二酸化炭素吸収量を増加させながら、持続可能な森林経営モデルの確立を目指しています。

②企業との協働による森林づくり

一般的には「企業の森」と呼ばれる施策

です。町有林のうち約40haを、株式会社岐阜造園、アサヒビール株式会社、東邦ガス株式会社、東海化成工業株式会社、株式会社十六銀行（協定締結順）の5社と協定を締結し、企業の皆様の協力により森林整備を進めています。

③森林ボランティア「水土里（みどり）隊」による整備

「水土里隊」は、森林の機能を発揮させ、町の森林保全活動を側面から支援することと地域の活性化に寄与することを目的に、平成16年に発足した森林ボランティア団体です。林内の除間伐による整備、炭の生産やシイタケの栽培などの独自事業のほか、地元の児童生徒などを積極的に受け入れ、森林整備の大切さを次世代に伝えていきます。



▲水土里隊による整備後の森の様子



▲地元高校生の特別授業

里山活性化の試み

人々の里山に対する理解を深め、さらなる里山の活性化を図るため、町の若手職員で「みたけ里山活性化ワーキングチーム」を結成し、多くの人が山に触れるきっかけを作るために活動しています。町有林を大学に見立て「ヒトキノアカデミー」として講座を開催し、林内で森林整備体験や散策などのほか、かつて松茸山として発展した山林を再生するための整備や先進地視察など、活発に活動しています。



▲ヒトキノアカデミーで森林整備

森林資源の活用

本町は、木材を活用した事業として、町内の2か所（子育て支援センターぽっぴかん、中山道みたけ館）にぎふ木育ひろばを設置しています。県産材で作られた家具やおもちゃ等を設置し、木のぬくもりを知り、木と親しみながら、皆が楽しい時間を過ごしています。

また、児童館をメインとした複合施設「伏見にこここ館」を木造で建設するなど、

公共施設の木造化として県産材の利用を推進しています。今後もこれを継続していききたいと考えています。



▲伏見にこここ館



▲ぎふ木育ひろばの様子

そのひとつとして、木造による新庁舎建設を目指しています。一般社団法人木を活かす建築推進協議会による設計段階からの技術支援を受け、平成29年11月には「御嵩町・木造公共施設シンポジウム」を開催し、地域の皆様、企業の皆様などに理解を深めていただきました。

資源循環型の仕組みを目指して

このように、本町は森林整備と資源活用により資源循環型の森林保全の仕組みを確立し、二酸化炭素吸収量の増大と担い手の育成を目指しています。地域住民、学校、ボランティア団体、企業など、様々な主体が参加し、社会全体で森林の再生に取り組まれることを願っています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0574-671-2111(代)

御嵩町役場農林課まで

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

8

平成24年度より県民みんなで豊かな自然環境を守る仕組みとして導入した「清流の国ぎふ森林・環境税」は、平成33年度末まで5年間延長されました。税活用事業の内容も見直しをしましたので、新しい内容の事業を含め連載で紹介します。

小水力発電による環境保全推進事業

■事業目的

ぎふの豊かな森林・水を活かした環境にやさしい社会づくりのため、環境負荷の低いエネルギーシステムの普及・啓発を図ることを目的に、身近な水路等に小規模な小水力発電施設を設置し、その施設等を活用して環境保全学習や環境保全活動に取り組む市町村や地域団体等の支援を行っています。

■実施状況

平成29年度は、豊かな水資源や森林資源など、自然エネルギー資源に恵まれた高山市奥飛騨温泉郷福地地内において、最大出力0.2kW、年間発電電力量1,050kWhの水車が設置され、街灯などの電力として利用されるとともに環境負荷の低いエネルギーシステムの普及・啓発に役立てられます。

環境保全学習では、地元の小学生が奥飛騨温泉郷が自然エネルギー資源に恵まれている理由や小水力発電により削減される二酸化炭素の量など、環境保全についてクイズ型式で学びました。

また、水の力の強さを実感するために、実際に水車を手で回す体験を行いました。



発電の仕組みの学習



環境保全学習



水車回し体験

■事業概要

①環境教育推進型

簡易な小水力発電施設を設置し、その地域で環境保全学習を行う。

②環境保全提案型

小規模な小水力発電施設を設置し、その地域で環境保全活動を行う。

※いずれの型も年1回以上の環境保全学習が必須となります。



■実施方法

上記取組について公募を行い、第三者による評価会議の結果を踏まえて、補助対象者を決定します。



山のおじゃまむし



ー 百聞は一見にしかず、トカゲ ー【第318回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

前号で紹介したように今年の夏は、チビちゃんたちが飼っているトカゲの世話で振り回された。しかし、苦にはならなかった。チビちゃんたちと話しができたからである。時々、笑えるようなことを聞いてくることもあった。しかし、チビちゃんは真剣。子供の目にはこのように映るのかと、私自身勉強になった。猛暑日のある日のことである。5歳のチビちゃんが「お爺ちゃん、暑いとトカゲも水を飲むの」と聞いてきた。「飲むよ」と答えた。すると7歳のY君「川の水を飲んでると、流されてしまわないの」。私は返答に困った。どこでどのようにして飲むのか知らなかったのである。「土の上や落ち葉に残っている水を飲むのではなく、なめているのだよ」と思いつきの返答をした。数日後、「お爺ちゃん、違うよ。トカゲは水をなめないよ。おいしそうに飲んでたよ」とY君が言ってきた。まさか。と思ったものの、それを母親が写真に撮っていたので間違いはない。Y君は暑い日が続いていたので、トカゲが可哀想だからと小さなカップに水を入れて与えたところ、すぐに飲み始めたという。私は口には出さなかったが「Y君、ごめん」と詫言った。百聞は一見にしかず。この言葉が脳裏に浮かんた。

× × × ×

そのY君が、今度は「トカゲも脱皮をするの」と聞いてきた。前にヘビの脱皮した殻を見たのを思い出したらしい。「するよ」と私。「ヘビのように脱け殻は残るの」と再度Y君。私はまたまた困った。ヘビの脱皮殻は何度も目にしているけど、トカゲは見たことがないからである。しかし、トカゲもヘビも同じ仲間。脱皮方法は同じだと思い、「残るよ」と返答した。8月中旬、Y君が「トカゲの皮がぼろぼろになっている」と言ってきた。トカゲの皮膚は半分くらいがはがれて落ち、残ったのが体に着いていた。脱皮だ。間違いなかった。またまた間違った返答をし、Y君には申し訳ないと思った。4歳と3歳のチビちゃんも毎日トカゲを楽しそうに見ていた。しかし、二人とも女の子。Y君と見方が違う。「お爺ちゃん、トカゲと虫が仲良しになったよ」と言ってきた。静止しているトカゲの背中に何匹も虫が止まっているのである。これを見て仲良しになったと思ったらしい。この発想。女子のチビちゃんならではと笑えてきた。しかし、今まで餌となっていた虫がトカゲの頭や背中で休んでいる。野外ではあり得ないことだ。不思議だ。何故か。

× × × ×

野外のトカゲは日当たりのよいところにいる。しかし、ここは冷房の効いた部屋。日光不足ではないかと思った。それから毎日2時間ほど直射日光に当てた。数日後、トカゲの背中で虫は見られなくなった。トカゲは日光不足で弱ってしまったのだと思った。これを見た4歳のチビちゃん。「トカゲと虫が喧嘩をしたのか

な」。その表情。本当に可愛かった。8月中旬頃から飼育しているコオロギが育ってきたので、これを餌に与えた。トカゲは口で捕らえてひと飲み。これ見ていた3歳のちびちゃんが「美味しそうに食べているよ」。そして4歳のチビちゃんは「3匹食べたけど、もう食べないよ」。すると「腹がふくれたのだよ」とY君。チビちゃんたちはこのような会話をしていた。確かにトカゲは1回に食べる量は1～3匹と少ない。しかし、2時間後にはまた食べはじめた。この繰り返しであった。だから野外のトカゲが動き回っているのは餌を捕

るためなのだった。これもチビちゃんのお陰。また勉強させてもらった。コオロギは日ごとに大きくなり、8月下旬には2cmを越えた。小食のトカゲは1匹食べれば腹一杯になると思った。ところがそうではなかった。逆に大きすぎて食べる



▲トカゲの子供

ことができないのである。このためトカゲはたくさんいるコオロギの中から口に入るものを捕らえて食べていた。時々、大きなコオロギの腹を口にくわえようとする。しかし、コオロギは太い後足でトカゲを蹴って飛び跳ね逃げていく。トカゲの餌捕りも大変だと思った。

× × × ×

9月中旬、「トカゲに触っても逃げないよ。慣れてきたの」とY君が言った。確かに背中をなぜても逃げないのだ。しかし、つかもうとすると素早く逃げ出すので、慣れてはいない。ストレスではないかと思った。狭い容器に4ヶ月も入れられているからである。それと餌を前ほど食べない。ひどいときは2日も食べないこともあった。コオロギが飽きたのではないかと思い、大好きな芋虫を与えた。それでも食べようとしなかった。動きが鈍い。このままでは死亡する。こんな予感がしたので、10月上旬、庭に逃がした。チビちゃんたちと見送った。トカゲは花壇の中へ消えていった。その後、チビちゃんたちは「トカゲは元気かなー」、「どこにいるのかなー」と口にしていった。半月後、鉢植えの下にトカゲの子供がいた。それを下のチビちゃん二人に見せ「これはトカゲの子供だよ」と教えた。すると「逃がしたトカゲの子供だね」と5歳のチビちゃんが言った。この純真な言葉。思わず私は「そうだよ。可愛いね」と答えた。

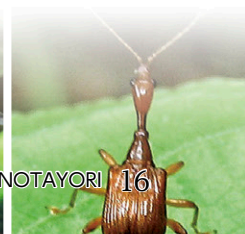
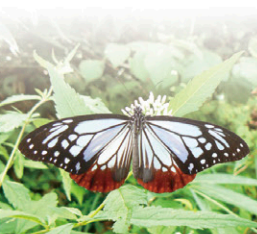


表1 岐阜森林管理署の森林事務所

森林事務所名	流域	森林事務所 所在市町村	担当する国有林所在地	配置される森林官
濁河	飛騨川	下呂市（小坂町）	濁河地区・小黒川地区	首席森林官
大洞	飛騨川	下呂市（小坂町）	大洞地区・樺谷地区	首席森林官
馬瀬萩原	飛騨川	下呂市（萩原町）	下呂地区・馬瀬萩原地区	首席森林官
小坂	飛騨川	下呂市（小坂町）	小坂地区	森林官
七宗	飛騨川	七宗町	七宗・東白川	森林官
岐阜	長良川	岐阜市	岐阜・美濃・山県・関	地域統括森林官
白鳥	長良川	郡上市	郡上	地域統括森林官
揖斐	揖斐川	揖斐川町	揖斐・本巣	首席森林官

森林官の仕事

国有林の現場から

16

岐阜森林管理署

揖斐森林事務所

首席森林官 村井 千秋
(文章まとめ) 大島 愛彦

岐阜森林管理署が管轄する飛騨川、長良川、揖斐川流域の国有林を適切に管理するため、森林管理署の現地機関として森林事務所があり、各事務所に森林官が配置されています。

岐阜森林管理署の森林事務所は表1のとおり8つあり、飛騨川流域は下呂市内に4事務所と七宗町、長良川流域は岐阜市と郡上市、揖斐川流域は揖斐川町にあります。今回は各地に配置される森林官の仕事を紹介します。

森林官の仕事

揖斐森林事務所の村井です。

森林官の仕事でイメージされるのは国有林の巡視ではないでしょうか。国有林及び官公造林地の巡視（日常点検及び災害調査）、国有林と民有林の境界の維持・管理、貸し付けを行っている土地の巡視等を行っています。

そして、署で発注する素材生産、造林、立木調査、林道の維持修繕等各種請負事業の監督などを行います。

他にも伐採を計画している森林からどの程度の出材量が見込めるかを現地調査する収獲調査、獣害対策（ニホンジカ、イノシ

シの捕獲）、山火事予防等の啓発活動、森林計画樹立の素案作成（現地調査を含む）を行っています。

揖斐森林事務所が管理する国有林は図のとおり範囲が広く、旧春日村と久瀬村の境にある「榎原谷国有林」、池田山西側の「足打谷国有林」、横山ダム北の「川尻国有林」があり、その他に滋賀県、福井県境の「川上国有林」と「門入国有林」、本巣市根尾の福井県境に「能郷国有林」、「大河原国有林」、「越波国有林」があります。

国有林では次世代の森林を造るため、主伐・再造林を進めています。写真は榎原谷国有林で3haの立木販売（皆伐）を行い、造林木をシカの食害から守るためにツリーシェルターを設置した箇所の食害調査を行っているところです。

国民の森林である国有林を健全に管理育成し、必要に応じて林業の先進事例を作り、そうした情報を民有林へ積極的に提供したいと考えています。森林・林業に関する情報が必要なときはぜひご連絡ください。



揖斐で新しい森林整備推進協定を協議中

昨年の本誌6月号で紹介しましたが、岐阜森林管理署では東白川村、下呂市、七宗町で森林整備推進協定を締結し、民国連携して森林共同施業団地の取組を進めています。

課題として、飛騨川流域では3地区で協定を締結していますが、長良川流域と揖斐川流域では締結事例がありません。

そこで4月から新規協定の締結に向けて調査、検討したところ、岐阜県揖斐農林事務所の全面的な協力を受けて、揖斐川町の榎原谷国有林に隣接する民有林と新規協定の話し合いを進めています。場所は近年話題になっている岐阜のマチュピチュ（天空の茶畑）の上の山です。

協定の内容等は締結後にあらためて紹介しますが、民国連携の取組を進めることも森林官の仕事です。年度末までに協定締結を実現できるよう最終調整を行っています。

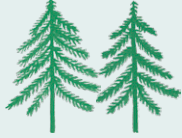


●詳しい内容を知りたい方は
TEL 050-3160-6090(代)

岐阜森林管理署まで



まだまだ元気な 岐阜県林業グループ連絡協議会



■森林技術開発・支援センター 林業普及指導員 原 彰良

岐阜県林業グループ連絡協議会は、林業技術・経営の改善研究等意欲的な森林所有者によって、各地区で組織された林業グループが集まり昭和三十七年に組織され、五十六年の歴史があります。構成員は、現在、三十団体四百六十三名です。

最近の林業グループの主な活動は、地域の森林・林業の活性化を目指し、後継者の育成、林業技術の伝承、森林資源の有効活用の研究、小中学生への森林教室等を行っています。

総会

県下各地の林業グループ員が一堂に会し、グループ活動のより一層の推進と会員相互の連絡・協調を図るため、第五十六回通常総会と第六十三回林業グループ大会を平成二十九年七月七日（金）に中津川市苗木交流センターにおいて総勢百十名の参加で開催されました。

三浦会長からは「山も人も次の世代へつないでいかななくてはならない」旨の挨拶がありました。

功労者表彰

総会では、永年にわたり、林業・林産業及びこれらに関連する事業に精励し、他の模範となる者や林業グループ活動に多大な協力をし、グループの活性化等に貢献した者（小中学校等団体を含む）等を会長表彰しています。

今回は、高山市一之宮町林業グループの会長を二期務め、地域に間伐等の必要性を普及する活動に尽力された大森治良さんと、森林学習を通してふるさとの歴史を学ぶ活動に、積極的に取り組まれている中津川市立加子母中学校さんを表彰し、表彰状と記念品（木製額縁）が授与されました。



▲会長表彰

林業グループ大会

各地区を代表し、福岡林業経営研究クラブの小縣増雄さんが、間伐や枝打ち体験の森林教室の開催や、産業祭でのしいたけの販売といった活動事例について、発表されました。

その後、大会宣言として「恵那こぶしの会」の木村仁枝さんから、地域リーダーとして、それぞれの地域で森林整備意欲の低下した森林所有者への働きかけや、地元小中学生に対して、森林の重要性を伝えていくとともに、森林づくりの担い

手として、誇りと気概を持ち、大切な森林を、健全で豊かな姿で子供や孫へとつなげられるよう「健全で豊かな森林づくり」と「後継者づくり」に取り組むこと等が宣言されました。



▲活動発表（福岡林研クラブ）

技術交換研修会

午後からは、県主催の技術交換研修会を開催しました。

低コストで効率的な作業システムにつながるコンテナ苗の生産に、いち早く取り組まれた中津樹苗（中津川市落合）の山本太一さんから、コンテナ苗生産施設の運営や機械等の説明、生産・販売システムとその受給状況の説明を受けました。

参加者は、コンテナ苗の特徴を理解するとともに、地元に戻って情報提供するために、サンプルのコンテナ苗を持ち帰るグループ員もいました。



▲東濃林産物共販所

次に、大型バス二台で、東濃林産物共販所とNPO法人ぎふ村高齢者健康増進センターを現地視察しました。

東濃林産物共販所では、樋口所長から東濃ひのきを中心とする木材市場の原木取り扱い状況や、構造材や合板利用のための径級、採材方法等について説明を受け、自らの森林を思い起こし、伐採適期、伐採方法等を質問するグループ員もいました。



▲中津樹苗 (山田太一氏)

NPO法人ぎふ村高齢者健康増進センターは、地元産木材(東濃ひのき)を柱や梁、内装材などに多用し、施設全体に使われているヒノキの香りやぬくもりが心を和ませてくれる施設です。

ぎふ村の鈴木さんからは、特別に高齢者健康増進センター施設内のプールを開放していただき、末口径三十四cm径の現しの丸太梁などの説明を受けました。

グループ員か



ぎふ村高齢者健康増進センター丸太梁

らの利用者の感触はどうかとの質問には、「木のぬくもりを感じ、リフレッ

シユ効果も感じられ、好評である。」とのこと

した。

この研修を通して今後の地域林業の課題解決につなげていただければと思います。

本県林研クラブ

最優秀賞獲得!

平成二十九年度の中部・北陸ブロック林業グループコンクールは、八県が参加し、平成二十九年八月三日(木)～四日(金)に福井県あわら市で開催されました。

これは、中部・北陸地域内の林業グループ活動内容を発表し、意見交換を行うものです。また、技術交換研修会によりグ

ループ員の視野を広め、地域林業のリーダーとしての資質の向上を図ることも目的としています。

三日(木)は、各県の代表グループから、日頃の活動について、発表がありました。発表のトップバッターとして岐阜県代表の本県林研クラブの浅野宣さんが、「地域に根差し、地域と共に学び、協力する林研活動」と題し発表しました。

各県代表の発表後、審査結果では、「岐阜県代表は、多彩な活動をされていて、おりべ杉の指定や小学生への総合学習支援、高校生への間伐体験支援、若手の加入もあつてすばらしかった」との講評を受け、見事、最優秀賞を受賞しました。

本県林研クラブは、平成三十年二月に東京都で開催される全国林業グループコンクールに中部・北陸ブロック代表として発表されます。

次は、全国最優秀を目指されるとのことです。

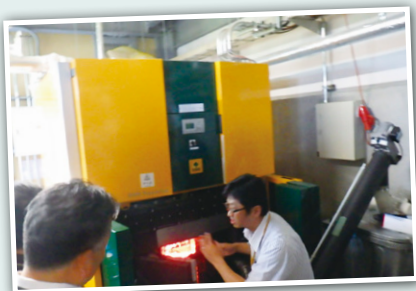


▲活動発表 (本県林研)

四日(金)の研修会現地視察では、会場のホテルにあるチップを燃料にして電力を供給している施設の他、ホテルに木質チップを供給している施設等を視察しました。

施設は、地元森林組合の運営で、CD材を皮むき後、1年ほど乾燥させ、粉碎し、木粉を販売していること、産廃の中間処理施設として、枝葉などと処理費用を受け取って、木粉や薪などを作って販売しているとのことでした。

グループ員は、最新の木質バイオマスシステムを理解していました。



▲木質ボイラ

今後も、最新の情報等を提供することで、積極的なグループ活動がなされ、「健全で豊かな森林づくり」「後継者づくり」につながることを期待しています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-13512535

森林文化アカデミー 森林技術開発支援センターまで

国内産トリュフの感染苗木を 作成する

森林研究所 ● 水谷 和人

はじめに

トリュフは、世界三大珍味の一つにも数えられる高級食材です。トリュフには様々な種類があり、色や発生時期などに基づいて、黒トリュフ、白トリュフ、夏トリュフ、冬トリュフなどと呼ばれています。

ヨーロッパなどでは、栽培できるトリュフの種類は限られています。ブナ科樹木などの苗木に菌を感染させた感染苗木を植栽して、人工栽培が行われています。

一方、国内にも黒トリュフも白トリュフも自生することがわかってきましたが、我が国ではトリュフの栽培は行われていません。国内に発生するトリュフの栽培化に向けた検討が必要ですが、ヨーロッパのものと種類や発生環境などが異なるため、海外の人工栽培技術をそのまま適用することはできません。

まずは、感染苗木の作成が必要です。感染苗木ができれば、トリュフ栽培に

一歩近づくため、当研究所でも検討を進めています。まだ、確立された技術には至っていませんが、トリュフ感染苗木の作成の状況を紹介します。

感染苗木の作成状況

・苗木は、コナラの実生苗を使用しています。主根は10 cm程度に切断しています。

・接種源は、黒トリュフや白トリュフの胞子、培養菌糸、キノコが発生していた場所の土壌です。

・容器は、主に容量300 mlのマルチキャビティコンテナです。

・培土は、滅菌した鹿沼土や鹿沼土に芝の目土を混合したもので、これらの材料に石灰を添加したものも使用しています。

・管理は、23℃程度に設定した照明付き(6,000ルクス、1日18時間照射)の育苗室で、水道水を2日に1回程度、散水しています(写真1)。

感染苗木はできるか

接種源や培土などを変えて、様々な方法で感染苗木の作成を試みています。しかし、多くの苗木で感染は見られていません。

唯一、白トリュフであるホンセイヨウシヨウロを接種した一部の苗木で、根にトリュフ特有の形態を示す菌根が観察できました(写真2)。DNA解析の結果からも、菌根がホンセイヨウシヨウロであると確認できています。菌根が形成した苗木は、苗高約7・7 cmで、1本当たりの菌根数は平均117個でした。

おわりに

現状では、多くの苗木が感染していません。そのため、接種方法や管理方法について改良が必要です。ただ、数は少ないですが、作成できた感染苗木は野外に植栽して経過を観察したいと考えています。

本研究は、農林水産技術会議の委託プロジェクト研究「高級菌根性きのこ栽培技術の開発」で、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所などと共同で行っているものです。

トリュフが発生する場所などの情報



写真2 トリュフ菌が感染した根



写真1 苗木の育成状況

があれば、ご連絡を頂けると幸いです。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-331-2585

森林研究所まで

平成29年度

第56回 治山研究会中部支部技術(設計・積算)検討会に参加しました。

平成29年10月26、27日に、福井県にて第56回治山研究会中部支部技術(設計・積算)検討会が開催されました。

治山研究会中部支部は、中部8県と中部森林管理局から構成され、毎年、現地検討会と技術(設計・積算)検討会を開催しています。技術(設計・積算)検討会では、「治山技術の発展向上のための取組課題」と「設計・積算歩掛調査等の課題」を局・各県が持ち寄り、情報交換や解決に向けた討議を行っています。(現地検討会の内容については12月号に掲載しています。)

両日に渡って、福井県庁舎にて検討会を行いました。今回は、昨年度本県も受検しました会計実地検査において治山事業がメインテーマになり、全国的に講評事案として掲げられたことを受け、事業計画や山地災害危険地区への取り組みのほか、治山技術に係る課題が多く出されました。このほか、昨年度大幅に改定された調査設計歩掛の適用や局・各県で直面している諸課題など、ここ数年を振り返っても、重要な課題が多くあったこともあり、例年以上に活発な意見交換がなされました。

多くの課題がある中で、この検討会だけで解決策が見付かるという訳ではありませんが、実務担当者相互の交流も深まり、今後の事業遂行に非常に有意義な会議となりました。

なお、来年度は長野県において開催されます。



検討会の様子

【治山課 下垣内友哉】

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3167) 治山課まで



森林・林業関係イベントカレンダー(2月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
2月7日(水)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間: 9:20~15:30 学科 15:30~16:30 実技 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 11,340円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月8日(木)~ 2月9日(金)	伐木・チェーンソー 作業従事者 特別教育	●講習時間: 8日 8:30~17:40 学科 9日 8:30~17:30 実技 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 18,900円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	8日(学科) ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6) 9日(実技) 岐阜県森連岐阜支所 (関市倉知字物見山4660-16) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



「森林のたより」編集委員になって1年が経ち、皆様に記事を書いていただくことの大変さを感じている今日この頃です。

本号でも紹介しておりますが、昨年のドイツに引き続き「日独林業シンポジウム2017」を岐阜市で開催しました。また、その前日にはエクスカッションとして、ドイツからお越しいただいたロッテンブルク大学の先生及び学生20名等に郡上市の古川林業と長良川木材事業協同組合を見ていただくための支援を行いました。

当日は、古川林業の古川秀樹氏からの説明及び長良川木材事業協同組合の山内氏からの説明に対し、ドイツ側からは熱心な質問が数多く出て、視察時間がオーバーするほどでした。

私自身もドイツ人から話しかけられることが多かったが、ドイツ語、英語は分からず、片言の英単語で対応しますが、案の定理解してもらえず通訳がいないとタジタジになる1日でした。もう少し会話ができればといいなと感じました。

今後はこのシンポジウムを契機として、日本とドイツの関わりが更に強固なものになることを祈念しています。

「森林のたより」編集委員 井戸 好美

イベント情報

2月1日発行

連載

- 山の歳時記(150)
- 山のおじゃまむし(319)

地域の人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(62)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(60)

清流の国ぎふ森林・環境税

わがまちの森林・環境行政(14)

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

2月号
予定

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1644回 岐阜共販所 12月5日	すぎ	3 m	16～18cm	12,200	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
		4 m	16～18cm	11,200	—	
			20～22cm	11,700	—	
			24～28cm	12,700	16,000	
			30cm以上	12,500	20,000	
	6 m	16～18cm	13,500	—		
	ひのき	3 m	16～18cm	16,300	—	
			20cm以上	15,000	—	
		4 m	16～22cm	16,800	—	
			24～28cm	14,500	—	
30cm以上			16,500	—		
6 m	16～18cm	23,000	—			
第1221回 飛騨共販所 12月6日	すぎ	3 m	16～18cm	12,000	—	
		4 m	24～28cm	12,000	—	
			30cm以上	12,000	35,500	
	ひのき	3 m	16～18cm	16,000	—	
		4 m	20～22cm	15,500	—	
			30cm以上	16,000	40,000	
	まつ	4 m	24～28cm	9,000	—	
			30cm以上	10,000	—	
		ひめこ	4 m	24～28cm	16,000	—
	30cm以上			14,000	17,000	
	5 m		30cm以上	—	—	
	くり	4 m	24cm以上	20,000	26,000	
第1554回 東濃共販所 12月7日	すぎ	3 m	16～20cm	12,200	12,900	
		4 m	22～28cm	12,500	16,500	
			30cm以上元	13,300	21,000	
	ひのき	3 m	16～20cm	16,700	34,000	
			22～28cm	14,700	34,000	
			30cm以上元	19,800	43,000	
		4 m	13cm以下	9,000	—	
			22～28cm	15,000	52,000	
			30cm以上元	20,000	56,000	
	まつ	4 m	18～20cm	27,100	91,000	
22～28cm梁			7,500	—		
		30cm以上元	10,000	—		

木材市場

全般的に横ばい(弱含み)で推移

【商況】

スギ並材3m(16~24cm)は不足しており強含み。スギ4m元木、二番ともに中目、中目上は不足しており強含み。スギ構造向け並材、合板向け、かなり不足。ヒノキ並材4m土台取り強含み、造材は4m(16~22cm)が有利。ヒノキ二番中目材は荷動きも少なく、弱含み。製紙パルプ向け針葉樹はかなり不足。製紙パルプ向け広葉樹原木、受け入れ制限となっております。予定される方は共販所担当者まで一報ください。(岐阜)

ヒノキ並材4m(16~22cm)強含み。スギ並材3m・4m(16~24cm)不足。需要期を迎えヒメコ、広葉樹は上昇の気配あり。スギ太物良材は人気。スギ太物欠陥材は売りづらい。広葉樹が入荷が薄い状態となっておりますので出荷者各位のご協力をお願い致します。(飛騨)

ヒノキ元木、良材(高齢材及び枝打材など(特殊材))2m・3m・4m・6mは応札も多く横ばい。ヒノキ並材は3m・4mとも(16~28cm)横ばい、6m(16~20cm)は価格安定。スギは全般的に品薄、4m元木、良材は応札多くやや高値、二番玉並材3m・4mとも(16~28cm)横ばい。枝虫材等、欠点材は売りにくい。(スギについては、県内新工場稼働(長良川木協)につき今後原木の流れが良くなるが、荷不足感が強い。)(東濃)

製品卸売標準価格 (11月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	(2,150)	→
	間柱	3000	105	30	1等	65,000	(614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
	柱	3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃松)特等	65,000	(2,808)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
W集 ウ成 ド材	柱	3000	105	105	国産5層	59,000	(1,950)	→
		3000	120	120	国産5層	60,000	(2,580)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (11月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	302	米栂	へム(アラスカ産)	292
	コースト(目荒)	310	米ひば	ボール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)



バーカー

丸太の樹皮を剥きとる機械。高水圧で皮剥きするジェットバーカー、刃物で剥くリングバーカー、ドラムバーカー、チェーンバーカーなどがあります。

木材用語一口メモ

(参考)日刊木材新聞社 木材・建築用語辞典